

ゴボウ (キク科)

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
春まき		タネまき									収穫	
秋まき												

品 種

滝野川、砂川、渡辺早生、大浦（太くて短い）、越前白茎（葉ごぼう）

栽培ポイント

生育適温は20～25度ですが、30度以上の高温でも生育をつづける高温性の野菜です。根部は耐寒性があり、冬に地上部が枯れても、春には芽が出てきます。

春まきで晩秋に収穫する作り方と、秋まきで翌年夏に収穫する作り方があります。種は好光性ですから、覆土はできるだけ薄くしないと発芽がよくありません。酸性の土に弱いので、石灰をまいて酸度を矯正し、直根が長くまっすぐに伸びるよう深く掘り起こして、土をこまかく砕いておきます。畑土は粘質土がよく、根の肉質がよくしまり、香気も味もよく、夏どりのゴボウ（若ゴボウ）は香りがいちだんとすぐれます。

発芽直後の幼苗は乾燥に弱いので注意します。ある程度生長したものは乾燥に強くなりますが、逆に多湿に弱く、2日以上冠水すると枯れるほどです。

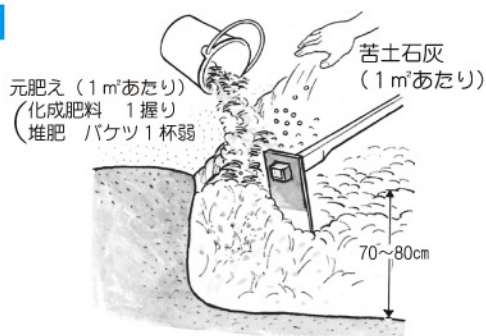
間引きは、子葉の丸いもの、葉色の濃いもの、葉裏に白い毛のないもの、本葉が密生しているものなどを目安に、とり除きます。

栄 養

炭水化物が主ですが、ほとんどイヌリンで、消化吸收できにくいものです。ビタミンはB1を多く含んでいます。

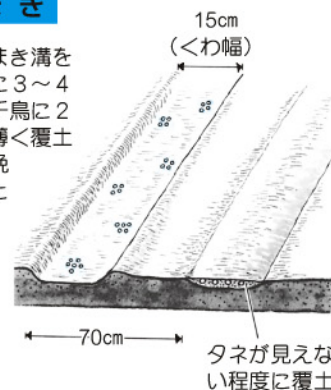
1 畑の準備

タネまきの半月前に畑に苦土石灰と堆肥、化成肥料をまき、70～80cmまで深く耕し、土をこまかく砕きながらよくまぜて、整地する。



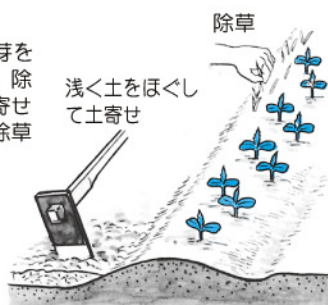
2 タネまき

くわ幅の浅いまき溝を切って、1カ所に3～4粒ずつ、タネを千鳥に2条にまき、ごく薄く覆土する。タネは一晩水につけておくと発芽がよい。



3 発芽後の手入れ

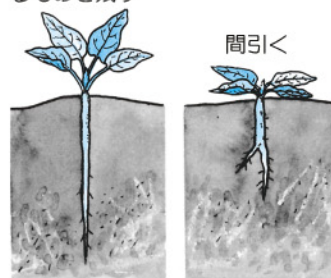
タネまき後10日ぐらいで発芽を始める。発芽がそろったあと、除草をかねて1回目の中耕、土寄せをする。1本立ちにするまで除草をこまめに行う。



4 間 引 き

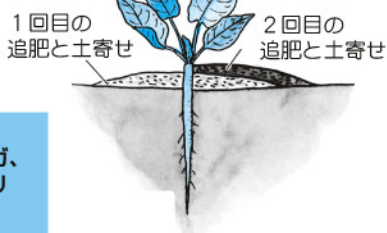
本葉3枚のころ、1カ所1本に間引き、追肥と中耕、土寄せをあわせて行う。

葉が上に向かって勢いよく伸びているものを残す



5 追肥・中耕・土寄せ

1本立ちにしたあと草丈が30cmになる前に、畝の肩に交互に追肥し、中耕、土寄せをする。



主な病害虫

- ◆害虫 フキノメイガ、アブラムシ、ネキリムシ、センチュウ
- ◆病気 うどんこ病

6 収 穫

根の直径が2cmぐらいになれば収穫できる。そのまま引っぱると途中で切れてしまうので、わきの土を掘りくずしてから両手で引き抜く。

